

## ジャムズネット東京メンバーインタビュー 第12回

聞き手：池田みどり

ジャムズネット東京には、多くの精神医やカウンセラーがいます。うつ病などの精神障害が社会的な現象になっている現代、メンタルヘルスは日常生活にも欠かせない問題となってきました。鈴木先生は特に多文化におけるメンタルヘルスを研究なさっています。今回は世界を跨いで活躍する日本人のためのメンタルヘルスについてお聞きします。

### ■鈴木満さん



外務省診療所精神科医師兼人事課メンタルヘルス対策上席専門官

岩手医科大学神経精神科学講座客員准教授

多文化間精神医学会在留邦人支援委員会代表

日本精神科救急学会国際交流委員会代表

※多文化間精神医学ホームページ：<http://www.jstp.net/>

### ・英国に滞在されていましたが、どのような滞在だったのでしょうか？

1987年から1992年までの5年間、英国国立医学研究所神経生物学部門 Department of Neurobiology, NIMR に留学していました。ダイアナ妃が支援する神経再生医療のプロジェクトに参加し、そちらから奨学金をもらって研究生活を送っていました。なかなか論文が仕上がらず苦勞しましたが、4年目に成果がでて Gray's Anatomy など欧米の主要教科書に載りました。

当時はバブル崩壊前で、研究所のある北ロンドンには邦人人口が急増し、同時にメンタルヘルス不全をきたす駐在員、帯同家族、留学生、旅行者などのお世話に駆り出されることが増えました。個人での対応に限界を感じていた頃、北ロンドン地区の教会で邦人母子支援をしていた英国人、日本人留学医師会の仲間、日本大使館の医務官などの思いが一致し、「在英邦人の精神保健対策」というシンポジウムや在留邦人向けの啓発的な講

演会を企画しました。英国では日本の医師免許証は通用しませんが、白衣を脱いだ地域活動が自分の精神科医としての原点となったと思います。

**・帰国後はどのような生活をされ、現在に至るのでしょうか？**

上記シンポジウムと講演会は帰国後も続けたものの、なかなか後継者が現れず、自然消滅したのが大きな反省となっています。そこで日本から後方支援すべく、たまたま1993年に設立された多文化間精神医学会の執行委員としてこれまで活動してきました。帰国後は岩手医科大学神経精神科で講師職を得て、臨床・教育・研究という生活を続けてきました。その間何度か外務省からオファーを頂き、その度心揺れましたが、忙しくも自由な大学教員に留まっていました。しかし、外務省関係の仕事も含めて年間海外出張が2ヶ月近くになり、管理職的な責任を負うことが難しくなったため、昨年外務省の常勤となった次第です。

**・多文化でのメンタルヘルスを研究なさっていますが、どのような研究か教えていただけますか？**

JAMSnet 東京のあり方を考える上で提案した「跨ぐ」という概念は、英語でいうなら Trans という接頭語です。私の学術領域である多文化間精神医学の英名は Transcultural Psychiatry です。ですから多文化でのメンタルヘルスというより多文化間でのメンタルヘルスというのが正しい言い方になります。文化には国の文化もありますし、男女という性の文化もあります。職場の文化もあるし、世代による文化もあります。文化を別の言葉で言い換えるならば「環境」です。多文化間精神医学の面白さは、「環境」と「素因」(持って生まれた性格・能力など)とのインターアクションと言うことができます。その中で私のフィールドは113万人の海外在留邦人と年間のべ1700万人の海外旅行邦人ということになります。内容は、脳の環境適応といった基礎的なものからな過疎地医療における行政的提言まで多岐にわたります。

**・各国での医療ネットワークともやり取りがあり、その存続性の難しさを発表されていますが、その点について教えてください**

1990年を境に世界各地で自然発生的に邦人メンタルヘルス支援団体が生まれました。しかし、ロンドンで見られたように組織を束ねる人材の帰国などにより継続性が共通の課題となっています。いくつかの例外として、パリの現地居住型サービス、バンクーバーの出前型サービス、ニューヨークの官民協働型サービスがあります。ご存知の通り、NYのJAMSnetも成功している例です。2007年より東南アジア連携会議、北米連携会議など

を企画し、地域間連携を拡大中です。世界各地の仲間と連携することが存続のための方策の一つと考えています。

#### ・今後の活動について教えてください

私のライフワークは、海外在留邦人のメンタルヘルスです。現在、多文化間精神医学会、精神科救急学会、厚生労働省科学研究などの学術活動に加え、本職である外務省職員としても様々な対策を提言していきたいと思っています。9月26日は明治学院大学において海外在留邦人メンタルヘルス連絡協議会を開催します。JAMSnet 東京とは二人三脚のような関係になるのか、別の関係となるのか意見交換する予定です。当日は、既に述べた通り、世界各地で活動する同志との連携を強化します。

#### ・ジャムズネット東京に期待すること

日本から海外に行ったとき、治療や検査が途切れてしまう方々が多いという現実があります。逆に海外で手術を受けたり、治療をした方が、帰国したときに、継続的な治療ができない、あるいは中断してしまう方も多。そういう方たちがうまく治療を継続できるためのひとつの力になっていただきたいですね。たとえばジャムズネット東京のメンバーである、“BC ネットワーク”はニューヨークで活動していますが、このシンポジウムでは、このような活動を日本でご紹介させていただきました。いろいろな医療活動について、お互いが共有できるということは、とてもよいことだと思います。